

# すべての患者様が 生き生きと輝くために



2022年5月27～28日に開催予定の第110回日本美容外科学会。その学会長を務めるのが、医療法人社団英僚会あきこクリニック院長の田中亚希子先生です。日本美容外科学会の学会長に女性が選出されるのは19年ぶりのこと。歴代二人目の女性学会長である田中先生に、本学会にける思いやシンポジウムの見どころ、そして美容外科業界の目指すべき姿を中心に、お話を伺いました。



医療法人社団 英僚会  
あきこクリニック 院長  
**田中 亜希子** 先生

1995年に東京大学医学部を卒業。日本美容外科学会 (JSAS) 理事、日本アンチエイジング外科学会 (JAAS) 理事。日本美容外科学会認定専門医。大手美容外科副院長、美容皮膚科部長、診療部長を経て2009年12月にあきこクリニックを開院。院長に就任。2013年には医療法人社団英僚会を設立し、あきこクリニックの院長と兼任で理事長に就任。第110回日本美容外科学会の学会長を務める。

## 技術と知識を学び合い 患者様を「笑顔」に

2022年5月27～28日に開催する第110回日本美容外科学会のテーマは「美しい笑顔のための美容外科」です。コ

ンプレックスを解消し、すべての患者様に美しい笑顔を取り戻していただきたい。美容医療で悲しい思いをする患者様を減らしたい。医師の不勉強が原因で不幸になる患者様をゼロにしたい。そのような思いから、「笑顔」を本学会のテーマに掲げさせていただきます。ひと昔前の美容外科業界には「技術は自らだけのもの」という考え方の医師が多く、習得した技術を公に語らない傾向にありました。しかし、そのような時代は終わりを迎えたと思います。患者様の笑顔のために最新

の技術・アイデアについて話し合い、みんなで学び、業界全体をレベルアップさせていく。それこそ、これからの日本美容外科学会が目指すべき姿ではないでしょうか。

科を中心とした構成でしたが、2022年度は皮膚科や泌尿器科、婦人科形成、アイメイクなど、さまざまな分野から先生をお招きし、より幅広い領域をカバーした内容となっております。また、女性医師のキャリア形成やクリニック経営についてのプログラムも取り入れました。

んな私の性格を生かした面白い内容になっていると確信しています。

## 技術のある医師が生き残る 健全な美容外科業界を 目指して

現在、美容外科業界は玉石混合の時代です。SNSの普及により、さまざまなクリニックや医師の存在が知られるようになり、選択肢が増えた一方、優秀な医師とそうでない医師の見分けが難しくなってきたようにも感じます。スキルと発信力を備えた優れた医師がいる一方で、技量は高いけれども発信が苦手な医師、技量は今ひとつながら発信力が高いために名声を得ている医師もいるのが現状です。

これまでたくさんの方から多くを教えていただき、成長することができました。今度は私が本学会を通じて、皆さま、そして美容医療界に恩返しをさせていただきます。と思っております。

## 多角的なアプローチで 多くの方の興味を引く内容に

患者様から笑顔になっていただくためには、外科的な側面だけではなく、皮膚科や内科的なアプローチも必要でしょう。従来の日本美容外科学会は、美容外

科を中心とした構成でしたが、2022年度は皮膚科や泌尿器科、婦人科形成、アイメイクなど、さまざまな分野から先生をお招きし、より幅広い領域をカバーした内容となっております。また、女性医師のキャリア形成やクリニック経営についてのプログラムも取り入れました。

患者様を不幸にしないためには、まずは技術が何よりも大切だと考えます。技術に自信がない医師は、一流の先生方から学び、正しい知識をもって施術を行えるよう研鑽を深めていただきたいと思っています。また、技術に自信はあるけれど、発信に自信がない先生方は、経営とSNSに関するシンポジウムもありますので、そこで発信する力を身に付けていただきたいと思います。確かな技術のある医師が生き残る、健全な業界になってほしいと願っています。私は医師人生を通じ

## 自費研フェスティバル2021にも ご登壇いただきました

昨年開催した「自費研フェスティバル2021」では、田中亚希子先生を含む5名の女医の先生方にご登壇頂き、第110回日本美容外科学会のコンセプトや意気込みについてお話し頂きました。5月の開催に期待が膨らむ、華やかなステージとなりました。

